

「第6次茅野市総合計画基本構想(素案)」に係るパブリックコメントにお寄せいただいたご意見と市の考え方等について

「第6次茅野市総合計画基本構想(素案)」に係るパブリックコメントを実施したところ、下記のとおり貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を要約、集約し、それに対する市の考え方等をまとめましたので公表します。  
なお、「第6次茅野市総合計画基本構想(素案)」に直接関係ないと考えられるご意見(3件)については、公表していません。

1 意見の募集期間	2 意見の提出者数と件数		3 意見の提出方法別人数				
	提出者数	件数	メール	郵送	FAX	持参	計
令和5年6月20日(火)～ 7月7日(金)	12名	46件	10名			2名	12名

4 いただいたご意見とそれに対する市の考え方等

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
1		全般	「目標」が定性的なものしか書かれていないが、市の緊迫した財政状況と「総合計画」の位置づけを考えれば、具体的な数値目標の記載は必須と考える。	総合計画の成果を捉えるためには、定量的な指標が必要になりますので、今後、数値目標を設定します。
2	「DX」、「GX」、「SDGs」、「Well-being」など、それがなんであるのかを、茅野市として受けとめ、茅野市なりの言葉に置き換えた説明となっている基本構想を作っていたきたい。		世界、国の動向を捉え、茅野市のまちづくりにもDX、GXなどの取組が必要であるとの判断から、茅野市の課題解決に資する手段や価値観として、基本構想に位置付けています。	
3	茅野市に限らず行政は「何かした事」が重要で、「その結果、どうなったか」を重要視していないように思えてならない。「その結果、どうなったか」を重要視していると思えるような行政運営を行っていただきたい。		今後、基本計画に具体的な取組を位置付けますが、その結果を意識しながら、進行管理を行える仕組みを構築します。	
4	もう少し碎いて、「こういった事をやっていくんだ」みたいな部分が全く伝わってこない。		具体的な取組については、今後策定を進める基本計画に位置付けます。	
5	本素案においては、危機的な財政状況に対する記述が極めて希薄であるように思う。与件の整理の最初の項目に危機的な財政状況の記述があるべきではと考える。逆に、財政的には実は聞いているほどではなく、余裕があるのかなとさえ思ってしまった。 素案の段階ではありますが、もう少しまず、どの程度財政的に危機的な状況であるのかを明確にし、それに対し、 ・そのような中（財政的には厳しいが） ・これだけの費用を掛けて（施策に対する配分など） ・このような施策を実施し（わかりやすく） ・どのような課題を解決し（なにが、こうなります） ・このようになります。（費用をかける意味など） などの内容を示し、市民に対して、コミットする記述としていただきたい。		財政状況については、「茅野市の課題」の一つとして提起し、その課題を解決するための「まちづくりの新しい手段」に「行財政改革」を位置付けています。具体的な取組については、今後策定を進める基本計画に位置付けます。	

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
6			地域コミュニティがこれからのまちづくりに重要として指摘されており、その通りと思うが、現状の地域コミュニティは十分に機能していると考えているのか。(自身は)十分でないと思うし、それが現状の問題であり、これから地域コミュニティを活性化させることこそ、今後の重要な基本構想になるのではないか。	人口減少・超高齢化により、現状の地域コミュニティは十分に機能していないと捉えています。その活性化は、今後のまちづくりの課題であると考えており、基本構想においても与件の一つとして整理しています。
7		全般	<p>今回、SWOT分析をしているが、強み以外はどここの自治体でも共通する内容である。大きな方針としては、次のとおり。</p> <p>①将来安定した資金繰り確保 ②安心・安全な暮らしの維持 ③魅力ある地域づくり</p> <p>以上を踏まえ、茅野市の特徴を踏まえた、一段掘り下げた内容とし、具体的な行動につながるものにすべきと考える。</p> <p>具体的行動とは、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光については、茅野市単独よりも、原村、富士見町、立科町、諏訪市が連携し、地域としてお金を落とさせる仕組み(人流)を作る。</li> <li>・教育については、理科大との連携により、特徴ある義務教育を展開していることを移住促進の目玉にする。</li> <li>・子育てについては、0123の拠点増設により、子育てサポートを任意で気軽に受けられるようにする。</li> <li>・企業誘致については、地元製造業との雇用の奪い合いにならないよう、地域外からの移住者受け入れとセットで行う。</li> <li>・DXについては、何をDX化するかを明確にし、業者選定を早急に進める。単に情報連携だけではなく、雇用や移住につながる仕組みづくりでスタートしてみる。</li> </ul>	ご提案の具体的な行動を参考にさせていただきながら、具体的な取組を今後策定を進める基本計画に位置付けます。
8			基本構想に「若者の声を尋ねて若者が子どもをより持ちやすくする環境の整備や仕組み作りに努める」を加える。	いただいたご意見を踏まえて、具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
9		全般	<p>「幸せを実現できるまち」とは何か。          自己実現は確かに幸せの一部かもしれないが、都市部には到底かなわないので、緑豊かな田舎、古来から続く文化のある田舎は、「幸せに気づくことができるまち」、「幸せを実感することができるまち」であると良いと思う。          「幸せに気づくことができるまち」とは何か。          幸せは心に余裕やゆとりがなければ目の前にあっても気づけない。心の健康が大変重要である。では、心の余裕やゆとり、心の健康とは何か、何から生まれるか。自然、時間、お金、体の健康、他者とのつながりetc。          このうち、他者とのつながりが「交流拠点CHINO」である。          男性、女性、中性、若いも若きも、子どもも赤ちゃんも、障がいのある方も、市民も観光客も、皆ここにいて良いんだと思えるところ、皆が互いに助け合える、尊重し合える、誰もが助けを求めている、誰もが誰かの役に立つところが「交流拠点CHINO」。</p>	<p>都市部と地方のそれぞれの良さと、地方で幸せに暮らす市民の姿をイメージしながら、表現を検討します。          「交流拠点CHINO」のイメージについては、いただいたご意見を踏まえた表現を検討します。</p>
10			<p>一昔前は、3、4世代で生活することで、世代間の助け合いや交流などが自然にできていたが、今は核家族化が進み、世代間交流の機会がないなど、子どもを取り巻く環境は変化している。          そこで、こうした多世代間や様々な人の交流や助け合いなどができる、土日もやっている市役所や公民館、野外活動などがあると良い。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>
11			<p>市政を支えるにあたり、市の人口、特に労働し、納税する人口を増やす(少なくとも減らさない)ことが重要である。          ポイントとしては、以下の3つ。          ①少子化対策          ②茅野市に来てもらう(どうしたら来てもらえるか)          ③茅野市に戻ってきてもらう          ③について、例えば、若い女性が子どもの頃に家族で来ていた八ヶ岳に居心地の良さを感じ、住みつき、起業し、活動している、など(知人の話)。          こうした例は、大変大きなヒントであり、移住場所の選択肢として思い浮かべてもらうには、八ヶ岳の麓の茅野市を知ってもらい、来てもらい、「良いところ」だと思ってもらうことが必要になる。この「良いところ」が「交流拠点CHINO」のイメージである。また、地域が一体となって、子どもの頃の良い思い出の場となるようにすることで、一度市外に出た若者も戻りやすくなると思う。</p>	<p>具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。</p>

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
12		全般	働く場所の確保は大きな課題である。そこで、市がアルバイトレベルでも就職先を提案したり、マッチングしたらどうか。例えば、個人経営の商店や農家、一時的に人材が必要だけれど、求人にお金を使えない仕事はたくさんあると思う、これを若い世代を中心に展開すれば、仕事を体験しながら、誰かの役に立つ経験を重ねたり、こんな仕事があるんだとの発見にもつながる。仕事としての求人がなければ、中高生にたくさんの仕事の体験をさせたり、仕事の存在を身近に感じさせる必要がある。	具体的な取組を定める基本計画の内容を検討する中で、参考にさせていただきます。
13			年齢別の人口バランスが逆三角形になる中、子どもの数が急に増えることはありえない。もちろん増やす努力は必要だが、それと同時に様々な事柄のモデルチェンジをしていかないと社会が成り立たない状況。そして、モデルチェンジには個々のマインドチェンジが不可欠である。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
14	1	与件の整理 「1 茅野市が守り、育んできた大切なもの【茅野市の強み】」	「世界に誇る縄文遺産が身近にあるまち」 茅野市には縄文時代の多くの遺跡や遺物が存在しているが、単に発掘された遺物が存在しているのではなく、戦前から続く郷土の縄文研究や、それら縄文を活かしたまちづくりを目標に掲げたり、市民への縄文文化の啓発、市民総学芸員化、教育の場での縄文学習、考古館での市民ガイドの活動などを行っており、単なる「遺産」ではなく、市民に支えられた現在も息づく「文化」があることから、表現を「縄文遺産」から「縄文文化」に変更した方が良い。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
15			「日本最古の2体の国宝土偶」 表現が分かりづらい。日本最古の国宝土偶は1体のみ。「日本最古の国宝土偶を含む2体の国宝土偶」、あるいは単に「2体の国宝土偶」、「国宝土偶5体のうち茅野市で2体を所有し」など表現の変更が必要。 また、日本最古の国宝は現在、旧石器時代の「北海道白滝遺跡群出土品」となっている。「縄文のビーナス」ではない。	表現を変更します。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
16	1, 4	与件の整理 「1 茅野市が守り、育んできた大切なもの【茅野市の強み】」、「3 茅野市が直面している問題【弱み】」	強みとして、公民共働の「パートナーシップのまちづくり」が上げられ、弱みとして、人と人とのつながりの希薄化、地域を支える人材の不足、が上げられているが、矛盾するよう感じられる。パートナーシップが強みとなるほどに成功していたら、地域人材の不足は起きなかったと思う。長年やってきたパートナーシップのまちづくりが正しい施策だったのかどうかの検証が必要だと思う。	茅野市の「パートナーシップのまちづくり」は、茅野市ならではの公民協働の形であり、これまで多くの市民の皆さんの主体的なまちづくりへの参画により、現在のまちの礎を築いてきたという意味で、茅野市の強みと捉えています。しかし、20年余が経過し、「パートナーシップのまちづくり」に関わってきた市民の皆さんから、新しい時代に対応した形に再構築する必要があるとの声をいただいたことから、これからのまちづくりにも活かすべく、大切に守るべきものと位置付けています。
17	2	与件の整理 「2 茅野市を取り巻く環境の変化【脅威(世界、国内)】」	「世界規模の社会経済情勢の大きな変化」 社会経済情勢は一層不安定で混迷を極めておりとあるが、これは、国の経済政策の失敗が招いた結果であり、G7諸国で、日本だけ、この12年所得が増えず、貧困化が進んでいる現状である。これを自然現象のように書き連ねるべきではないため、細目は省略するべき。	世界規模の社会経済情勢の変化が引き起こされた原因ではなく、市や市民の皆さんを現に取り巻く環境を確認するためのページになりますので、現在の記載のままとします。
18	5	与件の整理 「4 大切なものを守るために必要なこと【茅野市の課題】」	課題について、通常、以下のように整理されると思うが、それが全くわからない。 ・現状で、うまくいっている事 ・現状では、課題を抱えている問題 良い部分をより良くするためにどうするのか、課題となっている事柄をどう捉えているのかなどの記述も全くなく、現状分析、課題抽出もどの程度できているのか、出来ていないのかさえも分からないものとなっている。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
19	5	与件の整理 「4 大切なものを守るために必要なこと【茅野市の課題】」	「公民協働のまちづくりの転換」 これまでのパートナーシップのまちづくりが、地域に多くの人の手があることを前提とする仕組みであったと評価しているが、本当にそうだったのか。30年前の人口は何人で、今何人なのか、というような分析がなければ、少ない人の手でまちづくりを進めることが必要との結論に説得力がない。また、現状は、まだまだ多くの人がまちづくりに参加できていないのではないかと。人手不足ではなく、機会不足なのではないか。	人口の推移と推計のデータを提示します。このデータからは、これからも人口は減少することが予測され、昨年のもちづくり懇談会においても、多くの地区で地域の担い手不足の現状をお聞きしたところ。こうした状況の中、多くの市民の皆さんにまちづくりに参画いただく機会を創出するツールの一つとして、DXを活用していきたいと考えています。
20	6		「課題解決の手段としてのDXの活用」 茅野市はDXを「他自治体に先行して進めてきた」との記載があるが、現時点では具体的な成果につながっていないことは大きな課題であると思うので、ここに記載した方がよい。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
21			「4 大切なものを守るために必要なこと」 「課題解決の手段としてのDXの活用」においては、「コスト・要員削減やサービスレベルの向上といった具体的な効果を出すこと」を記載した方がよい。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
22	7	基本構想 「1 これからのまちづくりの考え方」	「新しい手段や価値観を積極的に取り入れます」とあるが、それはどんなものか。	新しい手段に、「行財政改革」、「DX・アナログの再構築」を、新しい価値観に、「GX」、「多様性の尊重、寛容性」、「縄文に学ぶ(SDGs)」を位置付けています。-
23	8		図の中心にある交流に「移住」を加える。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
24			このページにこの図が来ても、使われている用語の意味が伝わらないのでピンと来ない。このページは22ページの次に来た方が見やすいと思う。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
25			<p>「縄文文化に学ぶ(SDGs)」  縄文文化の中に、現代的視点でSDGs的な要素が含まれているにすぎず、縄文人が決してSDGsを目指していたのではない。すなわち、縄文文化＝SDGsではない。  茅野市民としては、まずは縄文文化に学び、その中でSDGs的な要素を見つめるべきではないかと考える。縄文文化＝SDGsと勘違いしないように記載方法の変更が必要。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。</p>
26	8, 22	<p>基本構想  「1 これからのまちづくりの考え方」、「5 まちづくりの基本になる手段・価値観」</p>	<p>「縄文文化に学ぶ(SDGs)」  大切に力を入れなければいけない「基本となる価値観」の縄文へのアプローチがこの構想の中で大変弱く感じる。  ここ数年、八ヶ岳縄文ライフスティバル、茅野市5000年尖石縄文祭り、八ヶ岳縄文の里マラソン大会、茅野市縄文かるた大会などが終了又は中止となり、茅野市縄文プロジェクト実行市民会議は、一旦解散し、新体制に移行するとしているが、現状は自然消滅中であるなど、茅野市は「縄文を活かしたまちづくり、ひとづくり」のコンセプトを事実上放棄したと言われても仕方がない状況である。  「ちの縄文遺産市民ガイド」を育成するための養成講座をスタートさせるなどの新しい動きがあることは評価するが、今回の第6次茅野市総合計画基本構想の中で縄文文化を「基本となる価値観」と位置づけるならば、しっかりと力を入れて、市民への縄文文化の啓発を図り、内外に茅野市の縄文をアピールし、時に周辺市町村とも協力し、その基盤の作成と維持に努めるべき。</p>	<p>縄文文化をまちづくりに活かす手法は様々です。手法は変わったとしても、縄文文化の本質を守り、まちづくりに活かしていく方向性は変わりません。先行きが不透明な時代に私たちが直面する課題は複雑多岐に渡ります。今後は、こうした課題の解決に、縄文文化からの学びを活かしていきたいと考えています。</p>
27			<p>文中に『「どんなまちなら移住して子育てしたいか」を都心や市内外の若者(現在子育て中の若者も含む)に尋ね、その声をまちづくりの中心に据える』を加える。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。</p>
28	9	<p>基本構想  「2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】」</p>	<p>人口減少、超高齢化が急速に進展することで今後10年で何人の人手不足が顕在化すると考えているのか具体的な根拠が見えない。今後20年間はアクティブシニア層の増大が見込まれるはずである。ここで述べられている人手不足とはいかなる内容なのかしっかり検討した方が良い。</p>	<p>人口の推移と推計のデータを提示します。このデータからは、これからも人口は減少することが予測されています。昨年のまちづくり懇談会においても、多くの地区で地域の担い手不足の現状をお聞きしており、アクティブシニア層の力も、これからのまちづくりには必要であると認識しています。</p>



No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
29	13、14	基本構想 「3 目指すまちの将来像【目標1】」	「交流」とのコンセプトだが、格差が拡大する社会では、やはり絵に描いた餅になることを危惧する。	絵に描いた餅にならないように実効性のある計画にしていきたいと考えています。
30			ここで述べている交流の意味は、経済的消費者として観光客のような一時的な滞在者のことを言っているように思うが、それでよいか。すると公民協働による支え合い、助け合いの仕組み、つまり「パートナーシップのまちづくり」の観点とどのように関係しているのかよくわからない。交流を増やすことで改善するのは、観光、小売り業なのではないか。具体的に交流による展望がよくわからない内容になっている。単に、移住促進のことなのか。それだとすると総合戦略の中心になる項目ではないと思う。	ご指摘のとおり、地域における支え合い、助け合いもここで述べている交流に含まれるため、それがわかるような表現を追記します。なお、22ページのイメージ図の交流部分には、「パートナーシップのまちづくり」の文言を入れ込んでいます。
31			交流をキーワードとして、交流を促す仕組みづくりをすると書かれているが、その仕組みづくりについて、踏み込んだ具体的な記載が見られないため、説得力に欠けていると思う。交流を促す施策の例示があれば解りやすいのではないか。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
32			交流について強く述べられているが、唐突な感じがする。これまでの茅野市の交流は何が不足していたのか、望ましい交流の姿とはどうあることなのか、今から交流として何を指すのかが曖昧に思われる。交流拠点を重点的に整備するというのか。それなら、別荘などの活性化や観光振興など失っているものを取り戻す考えの方が早いのではないか。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。 具体的な取組については、今後策定を進める基本計画に位置付けます。
33	14		交流の考え方として、①市内外の新たな交流がまちの力となり、より多くの人や企業が交流する好循環を生み出す。②市外の人々の視点は価値や資源を発掘する。それを発信することで多くの人を市外から呼び込み、住む人の地域への愛着を醸成すると整理しているが、「市内外」と表記しているように、市外を中心とした新たな交流に着目した考え方のように感じられる。 茅野市の強みである「公民協働のまちづくり」が、問題を抱える事態となっていることを考えれば、「交流」の考え方の中に、市民間、地区内、隣近所の「交流」について言及する必要が有るのではないか。	ご指摘のとおり、地域における支え合い、助け合いもここで述べている交流に含まれるため、それがわかるような表現を追記します。なお、22ページのイメージ図の交流部分には、「パートナーシップのまちづくり」の文言を入れ込んでいます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
34	16	基本構想 「4 3つのまちの姿 【目標2】」	3つのまちの姿(目標2)において、言わんとしていることは分かるが、これまでの姿はどうだったのか。何が問題だったのか。今までのまちの姿の評価はどうなっているのか。どこをどう直していこうというのか。論点が抽象的になっているので、いつの時代でも適用する言葉の羅列と感じる。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
35			人口減少、超少子高齢化という与件があり、行政組織の見直しは喫緊の課題であると思う。すでに一部事務組合等行政の広域化が進められているが、職員規模の縮小が避けられない中で、サービス水準の維持のためには、市単独の生産性の向上にとどまらず、広域化できる業務を洗い出し、効率的な運営に向けた検討を進めることも必要ではないか。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
36	18	基本構想 「5 まちづくりの基本 となる手段・基本となる 価値観 行財政改革」	人の手のあることを前提とすることが良くない視点で述べられているが、“人の手のない”という観点をもっと丁寧に説明したほうがよい。 「公民館活動」、「パートナーシップのまちづくり」、「地域コミュニティのまちづくり」の仕組みを強みとするとあるが、強みについてのこれまでの評価がない。強みとするには、このしゅみを強化していくことが大切であり必要になると思うが、この総合計画では、そこへの認識が見えてこない。強みが十分であることを前提にしているようにも思える。本当にその認識で良いのか。 例えば、「公民館活動」は、「地域コミュニティのまちづくり」とは違うのか、それは「パートナーシップのまちづくり」とは違うのかなど、言葉の解釈が曖昧のままは良くない。 さらに、市民との対話を十分に行いながらと書いてあるが、市民間で議論するなど、コミュニティ内での対話こそ重要なのではないか。「パートナーシップのまちづくり」とは、市役所が市民と対話することで十分だと考えているのか。	人口減少・超高齢化が進展する中、今後、地域に人の手が十分にある状態は想定できないと考えています。一方、「公民館活動」や「地域コミュニティによるまちづくり」を含めた「パートナーシップのまちづくり」は、茅野市ならではの公民協働のまちづくりの形であり、茅野市の強みであると捉えています。その強みを、これからのまちづくりにも活かしていくために、行財政改革やDXにより、これまでのまちづくりの仕組みの再構築などを進めていきたいと考えています。なお、「パートナーシップのまちづくり」においては、市民の皆さんの間で議論することも大切であると捉えています。
37			①「加速する少子化に対応する為に制度や基準を調整し、行政の最適化に努める」を加える。 ②「地方債、補助金、ふるさと納税の活用も視野に入れ検討する」を加える。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
38	19	基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観 DX・アナログの再構築」	デジタル化のためには、「システムの公開」「新規参入の自由」が不可欠です。市政の責任者が、詳細に、正確に把握したうえで、新しいシステムの構築に取り組んで欲しい。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
39			「人手でなくても良い部分をデジタル技術等に置き換え」については、単に置き換えるだけではなく、置き換わったことをそのサービス等の恩恵を受ける人が意識しないものであって欲しい。また、提供される社会サービスが、高付加価値、高効率(低コスト)となるように、バックエンドが高度にシステム化される事は良いと思うが、その際に利用者がシステム化されて冷たくなったと感じることがないよう、人の温かみを感じるものであって欲しい。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
40			DXで何を合理化、省力化、効率化するのかよくわからない。地域産業の省力化、効率化、生産性向上のことなのか、市役所内の業務の省力化のことなのか、地域コミュニティの運営を含めてあらゆることなのか、とても曖昧な表現になっている。もっと具体的にした方が良いと思う。	DXで合理化、省力化、効率化する具体的な取組については、今後策定を進める基本計画に位置付けます。
41	21	基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観 多様性の尊重・寛容性」	多様性の尊重は既に寛容性という概念を包含していると思料するので、ここは「多様性の尊重」という基本となる価値観の提示で十分であると思う。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
42	22	基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観 縄文文化に学ぶ(SDGs)」	「【関連する計画等】縄文の里史跡整備・活用基本計画、縄文プロジェクト構想」とあるが、この2つの計画、構想は具体的実行すべき組織が現在不明確であり、単に列挙記載されているだけで実効性が伴っていない。第5次茅野市総合計画では縄文についてしっかりと計画を立て実行していた。第6次でも実効性を伴う計画・内容を持って立案して欲しい。	ご指摘いただいた2つの計画につきましては、第5次総合計画の基本計画に位置付けられており、第6次総合計画においても、施策や取組の重点化を行った上で、引き続き基本計画に位置付けます。

No	ページ	該当する箇所等	いただいたご意見の概要	市の考え方等
43	22	基本構想 「5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観 縄文文化に学ぶ(SDGs)」	縄文については、茅野市として、どのように活かしていくのかが全く見えない状態にあると思う。草の根で縄文に関わっている方々の声が多く市としての方向性に反映されていない事を身をもって感じている。関わっている方々の声を真摯に聞き、取り入れることが重要であるように思う。	縄文文化をまちづくりに活かす手法は様々です。手法は変わったとしても、縄文文化の本質を守り、まちづくりに活かしていく方向性は変わりません。先行きが不透明な時代に私たちが直面する課題は複雑多岐に渡ります。今後は、こうした課題の解決に、縄文文化からの学びを活かしていきたいと考えています。
44	23	基本構想 「6 まちづくりの3つのポイント」	素案の終盤に来て「自分ごと化」として、市民に対し、「自分がつくるみんなの茅野市」という表現で市民にも計画実現のための責務があるかのような表現がされているが、市民に対し、そのような思いがあるのなら、基本構想の中で、もう少し強く、市民の責務について触れておくべきだと思う。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。
45			記載された内容が当たり前過ぎてピンと来ない。今までの総合計画が実現できなかった理由を議論し、「集中と選択」、「目標実現のための進捗管理の徹底」、「ROI管理の強化」といった具体的なアクションにつながる内容の方が良い。	平易でわかりやすい表現を旨とし、総合計画審議会における議論や、これまでまちづくりを進める上で提起されてきた課題などを参考にして定めたものであり、現在のままの記載とします。
46	24,25,26	基本計画 「3つのまちの姿に関連した施策」	表現されていることは抽象的な内容で、施策例としては参考記述の施策があるだけだ。表題は、むしろ、「施策立案の方針」とした方が分る。それに、今までにはない施策として検討したい点を明確に示して欲しい。下欄の各種の施策については、「具体的施策例」として記載しておいた方が分かりやすい。	いただいたご意見を踏まえて、内容を検討します。